

拝啓

たくさんの柔道着をご提供いただき有難うございました。早速新しく始まった視覚障害者キッズ柔道と大人の柔道クラスの生徒に着用させ活用させていただいてます。別添の写真(1)(2)が着用と活動風景の一部です。有難うございました。

私はアテネオリンピックの日本人柔道選手の活躍に感動を受け57歳の時35年ぶりに柔道を再開し、東京の丸の内柔道倶楽部に所属しながら稽古を続けてきました。定年後2年弱継続勤務した後、JICAの募集せるマレーシアでの視覚障害者柔道指導に応募そして合格し、昨年9月末より妻帯同でマレーシアの首都であるクアラルンプールで柔道の指導を行っています。

私の職場はMAB(Malaysian Association For The Blind 邦訳マレーシア視覚障害者協会)というNGOの機関です。職務はここで社会・職業訓練を受けている全寮制の生徒及びOBに柔道の指導をする事と、視覚障害者柔道の指導者育成指導、更には視覚障害者柔道の国際大会で活躍できる様な選手の発掘・指導が主なものです。私はこの初代日本人指導者となります。

MABには約50畳の道場が併設されており、私はここで柔道の指導を行っています。MABでは4半期毎に入学してくる生徒達に対して、先ずオリエンテーションを行い、そして柔道への勧を行います。今回は半数がドロップしましたが約15名の生徒達がレギュラーとして定着しつつあります。一般に体力の無い視覚障害者にとって柔道はタフなスポーツとなるので、体力が続かずドロップしていく者が多いのが実状ですが、今回は女性5名を含む15名が残りしました。職業訓練修了には半年間必要ですが、訓練修了までに柔道の方は5級(黄色帯)か4級(オレンジ帯)まで昇級できるようプログラムを組んでいます。

職業訓練の為に入校してくる前述の生徒達とは別に、社会生活(杖の使い方・手摺の伝わり方等)及び学習訓練を受けている視覚障害者及び重度の多重障害を持つ3歳から15歳ぐらいの子供達にもPRE柔道・キッズ柔道として、身体を動かす事を教えています。ランニング・前転・受身・アヒルやトンネル(股下くぐり)等に代表される柔道の補助運動等は、非常に喜ばれています。視覚障害だけでなく脳障害や肢体不自由な子供達の参加も毎月増えていますが、受身の際畳をたたかせると皆一様にニコニコ顔になります。柔道の効用と言えらると思います。多重障害の児童に付き添う母親・祖父母の皆さんにも大変喜んでもらっています。キッズ柔道の場合、視覚障害だけであれば指導もそれほど難しい事ではありませんが、多重障害者の場合は、付き添いの母親・祖父母の方々に焦りもあって無理強いさせがちになる為、焦らずじっくり反応待ちましょうと家族の方々を抑えながらキッズ柔道のレッスンを進めています。

一方、全員MABのOBにあたりますが、本年12月に中国の広州で行われるアジアパラリンピック視覚障害者柔道競技に向け候補選手の指導も行っています。私はナショナルコーチとして、選手の指導にあたりると同時にマレーシアスポーツ局を何度か訪問し、資金支援を依頼をしてきました。然しながら何分マレーシアの柔道は国際大会での活躍の実績が無い為却下とされてしまいました。仕方が無いのでMABに頼みこみ取り敢えず3名程度の選手の参加遠征費用を出してもらおう内諾を取り付けました。どんな色のメダルでも取れば、今後マレーシア政府からの支援が期待できる様になるので、今夏は丸の内柔道倶楽部の4名の有志の先生方々に東京からクアラルンプールに來訪いただき3日間強化稽古をしていただく事になっております。

現役時代私は商社に勤務しアメリカ・台湾・ドバイ・インド等の各国で10数年海外駐在をしてきましたので、海外生活には違和感の無い方ですが、柔道に関しては、中断期間が35年以上と柔道と縁の薄い生活を送ってきました。そうした自分がこのようにマレーシアで柔道漬けの毎日を送るようになるとは夢にも思わなかった事ですが、柔道を通しマレーシアでも楽しくやっております。

実は私がマレーシアでの視覚障害者柔道指導者に決まった直後からマレーシアでの柔道普及に大きな貢献をされてこられた坂元英郎先生（八段）にお声をかけていただきマレーシア柔道事情等事前にご紹介いただきました。そしてマレーシア着任後も、坂元英朗八段が主管せる極めてインターナショナルなBANGSAR柔道倶楽部でも（KL市内の健常者の柔道倶楽部）柔道指導を始めました。従って現在はMAB（視覚障害者協会）とBANGSAR柔道倶楽部での柔道指導で1週間がフルに埋まる日々を送っている次第です。土曜日はMABの道場で、視覚障害者とBANGSAR柔道倶楽部の健常者の生徒との合同稽古を行い視覚障害者と健常者との柔道交流を深めています。健常者がガイドして道場の回りを走る事から始まり、お互いに真剣な乱取りも行っています。

こうした健常者の支援・協力は、視覚障害者柔道普及における大きなキーとなるものです。私の場合、BANGSAR柔道倶楽部の何人かの生徒達が、キッズ柔道や大人の初心者クラスのレッスンに駆けつけ手伝ってくれており多いに助かっています。

今後の課題の一つに全国レベルで盲人学校の先生及び生徒に対し、視覚障害者柔道の普及を図る事があります。一般に柔道をやったこと無し、知識さえも無しと言う状態ですが、マレーシアの教育庁に柔道のプレゼンテーション資料を提出すると同時に、盲人学校の先生を対象に2-3日間のワークショップをMABで開くので参加をとの呼びかけを始めました。盲人学校の先生及び関係者からは、柔道指導と言う余分な負担が増えるだけで、見返りあるの？得になる事あるの？と否定的な声ばかりが聞こえてきてはいますが、先ずは柔道とはどんなものかを盲人学校の先生方々に知っていただくところから突破口を開いていきたいと思っています。

マレーシアでの柔道指導は英語で行っていますが、私の様に柔道経験の短い者の言でも、柔道本家である日本人の先生と言うだけで注目して聞いてもらえるのは、柔道なればこそつくづく有り難い事と思います。微力ではありますが、視覚障害者柔道指導を核にしてマレーシアでの柔道普及に努めていきたいと思っています。今後とも宜しくご指導・ご支援のほどお願い申し上げます。

敬具

マレーシア視覚障害者柔道指導 小山 繁